

# さらばUN1号機物語

今から16年前の1999年世にUNマシンの原型となるウレタン圧送機をある漢が製作していた  
その漢は 必ず将来省力化の時代到来の中で ウレタン圧送機が必要になると確信していた

そして試作品をレンタカーに詰込 実際の現場で施工を繰り返し 改良を加えていった  
2004年7月ついにその漢と協力体制を取った当社が ウレタン圧送UNマシンビジネスを立ち上げた

そこから化研マテリアルなんちゃってUNチームの伝説がはじまった・・・  
海の物とも山の物ともしれないUNマシンチームにはレジェンドが集った

今はいない初代レジェンドオペレーターは 何を言っているのか少しわからなかった・・・  
当時鳴り物入りで開始したビジネスに多くの人に興味を持った が しかし 何を言ってるのかわからない？  
一目そのオペレーターを見て 本能的にこのビジネスはヤバイと感じ始めていた・・・

今では考えられないが 現場にホースを吊りっぱなしで帰ったこともあった・・・  
不安は見事の中し 2005年1月 入れてはいけない所にシンナーを循環させマシン火災発生しわずか1年で  
1号機は瀕死の重傷をおった そしてUNなんちゃってチームが確定した記念日となった  
運よく2号機が2005年3月完成しており  
開発者を中心に2号機をあやつり その間に1号機の修復に努めた  
2代目オペレーターは 2005年6月 2号機で現場初デビューした  
なにかマシンの異常があると「コノヤロー」と とにかくマシンを叩いて叩いて自然復旧に持っていく  
レジェンドだった・・・ その一生懸命叩く姿が現場から慕われ人気のあるオペレーターへと成長していったが  
後年現場で熱中症にかかりオペレーター業務を断念する事となった・・・

火災の後いなくなった初代オペレーターの代わりになるオペレーターが至急必要だった が  
なんちゃってが確定した後に オペレーターになりたい奇特な方は日本国には少なくなっていた

2005年4月当時物流ドライバーをしていた江縫ドライバーのテカった額に見事に白羽の矢が突き刺さった  
昔改造バイクを運転していた江縫ならUNマシンもいじれるだろうとの一か八かの判断だった  
江縫オペレーターは当初そのマシンがある久喜技術研究所に行き開発者と重傷をおった1号機を分解して  
修理していった 数値・理屈はわからないが 音・ニオイ・手触りなど五感でマシンとなじんで行った

そしてUNチームに入ってわずか2ヶ月半後の2005年7月修理した1号機で3代目OP初デビュー施工を行った  
(最速デビュー期間記録は現在も破られていません というかムチャでした・・・)  
わずれもしない横須賀の大型ショッピングセンター駐車場工法D-Hでドラムは50セット以上になる大型現場だった  
ずっと流しっぱなしで なんと発電機の燃料が切れるというあり得ない出来事が発生した  
そして2代目OPと2台体制で施工することとなった 当時過去最大のm<sup>3</sup>・施工トン数現場だった  
「くっそーなんでこんな忙しんだ・・・」 汗まみれで江縫OPはドラムを運んだ その時 ドラムの数が合わない事に  
気付いた「おかしい・・・？俺は100まではなんとか数える自信がある おかしい・・・？」  
と 手と足の指を使って数を数えたら 小指の第一関節分が無い事に気が付いた・・・「つめた覚えは無いぞ??」  
実はあまりのセット数の多さに 2代目OPが材料(D-H)を誤ってなんちゃって施工し本数が合わなくなっていた  
硬化不良になるか否かは天に任せた・・・

UN1号機は一番パワーがあった 2007年高層施工があり100m垂直ホースに耐えられるのは1号機  
しかないと判断しその現場がはじまった 当初ギアがうねりを上げながら吐出量を1ランク下げて施工した  
3時間後ホースから何か伝わってきたのを江縫OPは感じた「なんだこの生暖かい物は？」  
それは長時間の圧力により当時のホース内部が耐え切れなくなり一番強度の弱い先端ジョイント部から10m下部  
地上80Mより漏れ始めたウレタンだったそして気付いた時には80M先でディズニーランドに負けない花火の様に  
ウレタンが飛び散った こんなステキな花火は見たことが無いと 涙目で江縫OPは空を見上げた  
1号機は何事も無いように一定のリズムで静かにギアが回っていた・・・  
その後の事は 天に任せた・・・

2009年4代目OPもチームに加わり 3台体制で施工を行ったが2010年8月2代目OPが熱中症で倒れ  
また4代目専属UN3号機がなんちゃってメンテによりわずか2年でオーバーホールとなり1号機1台体制の時期があった  
4代目OPは2014年UNオペレーターから違う部へ異動し、レジェンドとなった・・・

その頃施工のラッシュで 江縫OPの額のテカリも曇りがちになった 2010年10月作業服を洗濯する間もない状態で  
ウレタンの付いた汚れた作業服に身をつつみ施工していたところ その現場責任者が  
「なんだその服装は～」と怒鳴り散らしクレームとなった 本人はもうヘトヘトで もう何を言われてもイヤの  
なんちゃって状態になっていた  
1号機は何事も無いように一定のリズムで静かにギアが回っていた・・・

額のテカリが曇りはじめると 集中力も途切れ 現場終了時に余ったウレタンに躓き現場を汚す事が多々あり  
現場からクレームが上がった

なんちゃって体制だったが 現場は確実に増え 本人の額は曇り時々雨の状況になった

2011年夏作業服が汚かったので脱いだ所バブル全盛期に鳶さんが着ていたような龍虎デザインシャツになって  
ウレタンを攪拌していた (本人は気合いを入れてカッコ良く仕事するぞ! のセンスだった..)が  
現場責任者から「チンピラみたいなかっことで仕事するとは何事だ～」と大クレームが入り当時の責任者が土下座を  
して謝罪した 江縫OPの額はドシャ降りとなった  
1号機は何事も無いように一定のリズムで静かにギアが回っていた...

その頃のUNチームは なんちゃって部隊だよな～のブランドが社内にもしっかり浸透していった  
但し 施工を終えた現場では  
「ありがとう 早くて助かったよ また現場出たら宜しくね」と リピーターの数が徐々に増えていった  
そして 一番安定感があり頼りにされたのがUNマシン1号機だった  
それは なんだかんだ言っても1号機 江縫OPなら何とかするんじゃないかと困難な現場をどう施工するのか  
期待する向きがあった 実際現場は10人10色 規定の考えでは出来ない所も その場の知恵で  
納める工夫をし UNチームにノウハウが蓄積していった この方法は使える これは失敗したなど話しあった  
但し言葉が「パッとやってピツ」とか感嘆詞多くどこまで伝わったかは疑問だった...  
難しい現場は 江縫OPが再下見をして解決策を提案したこともあった  
その時「さすが～やっぱり困った時は1号機 江縫OPだよな～」と言うと 額がピカッと輝いた

2013年8月 その現場はコの字型 真ん中にUNマシンを止め 気温39度 無風状態の中施工  
記録的な猛暑となった マシンの近くは体感温度60度を超える中  
江縫OPの額があまりのカンカン照りにヤラレ 施工後嘔吐した 次の日も2層目がある と言うことで  
夕方水風呂にしばらく浸かり(原人の治し方) 翌日現場を納めた  
1号機は何事も無いように一定のリズムで静かにギアが回っていた...

2010年熱中症で倒れた2代目の代わりに5代目として期待の人間がオペレーターになった  
そしてまた2013年11月異動の4代目と交代6代目OPとして新規採用し徐々にOP体制が確立されつつあった

2014年に入りUNマシン1号機のギア 流量器の異常が見受けられるようになってきた  
メンテナンスを徹底しても流力器の精度が悪くなってきた キアは交換しても その芯棒が遊び多く  
経年劣化により 不安定な状態となり現場に出せなくなった  
この歴史ある頑強な1号機は雨の日 嵐の日 ホコリ 振動 熱 なんちゃって対応に充分耐えてきた  
その耐久性は抜群だったが UNマシンの特殊部品は元の製造メーカーでさえ廃番となっており  
16年前の心臓部の流量器はまったく違う仕様になっていた  
現在の部品を取り付けるとそれに付随するシーケンサー・コンピューター制御・その内部のロム交換  
結束する名部弁などほとんど全てを交換しないと機能しなくなる事が判明した  
例えば 真空管を使ったTVで 真空管が痛み 真空管の代わりにICやLSIを付けるが付属部品が違うので  
新品買った方が安くつくという事...  
そして1号機から新型5号機へ変更する時期が迫ったと判断した  
その日2015年6月30日 UNマシン1号機リース満了日が静かにやって来た  
前日 全OPが共有部品を取り外し ピカピカに磨いた  
間違いなく1号機がUNマシンの歴史を創った

**ありがとう1号機 お疲れ様1号機 さらに漢のUNマシン1号機**

引続き新UNチームが新たな歴史をつくります



UNマシン1号機 足立800す 7457 いすゞエルフ  
2004年～2015年 サラセーヌ約1,000トン施工(汎用缶41,670セット分)  
車輛載せ替え9年走行距離距離: 98,650km

2015年7月  
1号機に感謝し記す  
坂本 尚也